

大阪教育大学
連合教職大学院

大阪教育大学



関西大学



近畿大学

子どもの未来を、
これからの教員を。





日本の未来の教育を共に創造しませんか

大阪教育大学 学長 岡本 幾子

大阪教育大学は、1874年(明治7年)5月に設置された教員伝習所をその起源とし、150年の歴史と伝統を有するわが国有数の教員養成大学です。

本学は、日本の教育の根幹を支えながら、その発展に貢献してまいりました。とりわけ学校教育分野において、日本の教育を先導する教員養成機関として教育の未来を切り開くべく、常に革新と挑戦を続けてきました。

「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、文部科学大臣から「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受け、「大阪から日本の教育を変える」をテーマに教師教育の高度化、教育の質の向上に取り組んでいるところです。

連合教職実践研究科(連合教職大学院)は、これまで本学とともに大阪の教員養成に重要な役割を果たしてきた関西大学及び近畿大学と、国立・私立の垣根を越えて連携し、2015年4月に設置したものです。

社会の急激な変化や、将来の予測が困難な時代に対応し、次世代の教育を担うリーダーとしての資質能力を向上させ、学び続ける教師として、複雑に絡み合う多くの教育課題の解決に即応できる実践力を身につけた教師の養成に全力で取り組んでおります。

そして、多様な学びのニーズに応え、様々な育成段階の教員が共に学び合える環境を整備することを目的に、連合教職大学院では、オンラインによる授業を拡充しています。

日本の未来の教育を共に創造しませんか。

連合教職大学院で学んだ皆さまが、学校教育のけん引者として、より一層活躍されることを期待しております。



Contents

- 02 TOPICS
- 03 教員養成フラッグシップ大学について
- 04 フラッグシップ大学特例領域科目
- 05 連合教職大学院の概要
- 07 連合教職大学院での学び
- 09 コースの概要
- 15 大阪教育大学連合教職大学院の魅力
- 17 教職大学院生・修了生からのメッセージ
- 19 教職大学院生の一日
- 23 授業科目一覧(予定)
- 25 就職支援／進路状況
- 26 学費・奨学金
- 27 入試情報
- 28 三つのポリシー
- 29 Access

教職大学院
TOPICS

オンラインによる授業を拡充

現職教員がより学びやすい環境を整えるため、オンラインによる授業を拡充。

※長期休業日や土日を利用しての対面授業も取り入れながら、平日は双方向遠隔やオンデマンドなどのオンライン受講での修了が可能です(学校実習科目等一部の科目を除く)。

オンラインメインで受講した場合(現職教員院生)のモデルケース

小学生の子育て中



援助ニーズ教育実践コース(M2)
上田 朋代さんの場合
現職教員院生
(松原市立天美小学校/中央大学卒)

「今、自分一人ではどうにもできない理由で困っている子どもたちが、学校に来たら笑顔になれる。そんな学びの保障ができる学校にするために、どうしたらいいのか。もっともっと学んで、専門性を高めたい」強い思いで、教職大学院に入学しました。私にとって、大学院で学ぶことは、ずっと前からの夢でした。現在一人で、子育てと仕事を担う私にも、学ぶチャンスが無い降りてきました。**それが、オンライン受講の拡充です。**わが子は、すぐそばで夕食を食べながら、私が学ぶ姿を見えています。夢を叶えるために学ぶ母の姿を見ながら、自分の夢を追いかけています。勤務校では、教職大学院で学んだことを実践に生かします。すると、子どもたちから即、フィードバックが返ってきます。日々の学びが子どもたちの笑顔につながり、理論と実践が往還する充実した時間。みなさんも一緒に学びませんか。教職大学院では、志ある、様々な校種の仲間が待っています。

前期第1ターム(4月～6月上旬)						※6限 18:00～19:30、7限 19:40～21:10
	月	火	水	木	金	土
8:00 ～ 17:00	勤務 ※自ら設定するテーマに基づく取組に従事している時間は「学校実習」の実習時間にカウント					
17:00	勤務先からの移動、夕食の準備			プライベート タイム 勤務先からの移動、 夕食の準備・子どもの 習い事の送迎・ゼミ の受講(隔週)・オンデ マンド授業の受講・ レポートの作成	勤務先からの移動、 夕食の準備	ガーデニング・家 事・買い物・子ども の習い事の送迎・ レポートの作成
18:00	研 必 学習指導の実践的展開	コ 必 援助の理論と 協働的援助	研 必 教育におけるDXと STEAMの理論と実践		研 必 生徒指導と教育相談 の実践的課題	
19:30	オンライン授業を受講 (オンデマンド型)	オンライン授業を受講 (同時双方向型)	オンライン授業を受講 (同時双方向型)		オンライン授業を受講 (同時双方向型)	
19:40	研 必 学習指導の実践的展開	コ 必 援助の理論と 協働的援助	研 必 教育におけるDXと STEAMの理論と実践		研 必 生徒指導と教育相談 の実践的課題	
21:10	オンライン授業を受講 (同時双方向型)	オンライン授業を受講 (同時双方向型)	オンライン授業を受講 (同時双方向型)		オンライン授業を受講 (同時双方向型)	

前期第2ターム(6月上旬～8月上旬)						※6限 18:00～19:30、7限 19:40～21:10
	月	火	水	木	金	土
8:00 ～ 17:00	勤務 ※自ら設定するテーマに基づく取組に従事している時間は「学校実習」の実習時間にカウント					
17:00	勤務先からの移動、 夕食の準備	プライベート タイム 勤務先からの移動・ 家事、夕食 ・オンデマンド授業 の受講・レポートの 作成	勤務先からの移動、 夕食の準備	プライベート タイム 勤務先からの移動、 夕食の準備・子どもの 習い事の送迎・ゼミ の受講(隔週)・オンデ マンド授業の受講・ レポートの作成	勤務先からの移動、 夕食の準備	ガーデニング・家 事・買い物・子ども の習い事の送迎・ レポートの作成
18:00	コ 必 児童生徒の発達と 子どもの援助ニーズ		研 必 学校経営と学級経営の 理論と実践		研 選必 子どもの貧困及び児童 虐待の理解と教育実践	
19:30	オンライン授業を受講 (オンデマンド型)		オンライン授業を受講 (一部オンデマンド型)		オンライン授業を受講 (同時双方向型)	
19:40	コ 必 児童生徒の発達と 子どもの援助ニーズ		研 必 学校経営と学級経営の 理論と実践		研 選必 子どもの貧困及び児童 虐待の理解と教育実践	
21:10	オンライン授業を受講 (同時双方向型)		オンライン授業を受講 (同時双方向型)		オンライン授業を受講 (同時双方向型)	

※天王寺キャンパスを修学キャンパスとした援助ニーズ教育実践コースの令和6年度前期タームをモデルケースとしています。
令和8年度は変更になる可能性があります。また、コースによって科目等は異なります。
※同時双方向型やオンデマンド型(同時双方向型の録画事後公開等)のいずれを実施するか、または両方を実施するかは科目によります。
※**オンライン授業(オンデマンド型)**で行う授業は当日の受講に限らず、数日から1週間程度の期間中の自分自身の都合の良い時間帯での受講が可能です。
※週によって授業形態が異なる可能性があります。
※オンライン授業(同時双方向型)で行う授業について、学校実習の学校園や勤務校園等での諸活動の都合による遅刻や欠席が生じる場合、事前に授業担当教員に申し出を行うことにより、該当する授業の録画を事後視聴することができる場合もあります。録画した授業の視聴や代替課題の提出等の要件を満たした場合、当該回を出席相当とみなします。
※モデルケースにおける「研」は研究科共通科目、「コ」はコース科目、「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目のことです。

教員養成フラッグシップ大学について

本学は令和4年3月9日に、文部科学大臣から教員養成フラッグシップ大学の指定を受けました。

教員養成フラッグシップ大学とは、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役としての役割を果たす大学のことであり、全国15大学の申請があり、本学を含む4大学が指定されました。

》大阪教育大学のテーマ

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、
学習者の学びに寄り添う教師の育成
ー協働・省察を促し、教育DXの推進による
先導的・革新的教員養成カリキュラムー

本学は、日本の教育課題が縮図化している大阪において、多様な主体と協働しながら、教員の養成・研修や学校教育の高度化に取り組み、成果事例を日本全国に発信・浸透させることにより、大阪から日本の教育を変えていきます。

》教員養成フラッグシップ大学に求められる3つの役割と本学の取組

本学は、指定大学に求められる以下の3つの役割に対して、特色のある取組を推進します。

1 先導的・革新的な 教員養成プログラム・ 教職科目の研究・開発

ダイバーシティ教育を基盤として、「子どもの多様性の理解のもと、学習者を中心とした授業実践力に優れ、個に応じた学習指導と一人一人の学びに寄り添う教師」を育成するための教員養成プログラムなどを開発します。

2 全国的な教員養成 ネットワークの構築と 成果の展開

教員養成に係る地域連携プラットフォームの拠点として「**みらい教育共創館**」を構築するとともに、教員養成・研修の高度化と効率化を図る「**学び続ける教員を支えるプラットフォーム**」を構築します。

3 取組の検証を踏まえた 教職課程に関する 制度の改善への貢献

多様な知的資源を集約することによって、新たな教員養成モデルや教育政策の提言、教職課程の質保証、現代的教育課題の解決に資する対応策の提示を行う「**実践的シンクタンク機能**」を確立します。

日本の教育課題に対応し、新たな未来教育を創造する
産官学連携による共創拠点

みらい教育共創館

教育委員会や企業、NPO法人などの
専門的知識や技術が一堂に会する共創拠点を構築し、
教育や教員養成の高度化に寄与します。

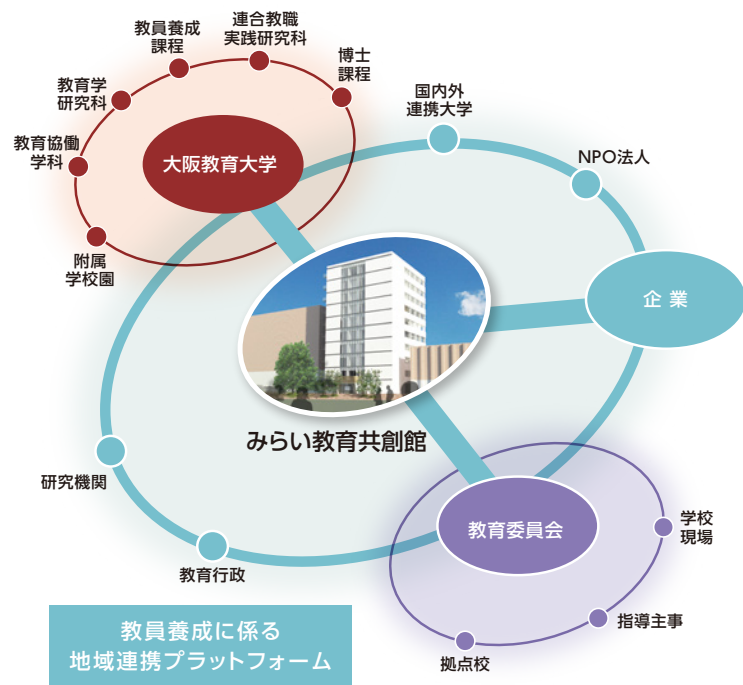
教育 学部生、大学院生（現職教員や企業人材を含む）など、学校現場を取り巻く様々なバックグラウンドを持った人材が学び合います。

研究 5室のオープンラボを配置し、企業やNPO法人と連携して共同研究事業などを実施し、教員養成プログラムの研究・開発や教育課題の解決、教育の高度化をめざします。

施設の貸出

みらい教育共創館の未来型教室、プレゼンテーションコート、ミーティング室等について、事前予約により、教育研究関連のセミナーやイベント等でご利用いただけます。予約システムからご予約いただけます。

予約システムはコチラ▶▶▶



フラッグシップ大学特例領域科目

》フラッグシップ大学の指定を受けて 共通5領域※に加えて設定する新たな領域・科目

教員養成フラッグシップ大学の指定を受けたことによる「教職大学院の共通5領域の必修単位数の弾力措置」を活用した独自の領域・科目を新たに設定しました。日本の未来の教育を創造していくためのカリキュラムにより幅広い学びのニーズに応えます。

教育DX・STEAM実践に関する領域	教育グローバル人材の育成に関する領域	多職種協働による組織マネジメントに関する領域
必修 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践	必修 グローバルスタディーズの展開	必修 多職種協働による組織マネジメント
授業の到達目標 ・教育DX（ICT）の基本的な活用も含む）の考え方を説明することができる。 ・STEAMを学ぶことの意義を自身の言葉で説明することができる。 ・学校教育においてSTEAMの視点を生かした授業について、提案を行うことができる。 ・学習指導要領に示されている、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力や問題発見・解決能力の重要性を認識し、それらを意識した授業を提案することができる。 授業の概要 ・STEAMに関する背景や実践事例について講義をし、実践事例を分析させる。 ・ICT活用やDXに関する政策や実践の動向を講義し、実践事例を提案させる。 ・個別にSTEAM教育実践の単元を設計し、発表をさせる。	授業の到達目標 本科目は、フラッグシップ大学特例領域「教育グローバル人材の育成に関する領域」の科目である。教員としてのグローバルリテラシーに関する講義を受けた上で、在外教育施設（日本人学校）を意識した授業づくりを行うことを通じ、以下の点をめざす。 ・グローバルな問題を我が事として受け止める感性を養い、多様な児童・生徒に対応し、グローバル教育を牽引する学校教員としての資質の向上をめざす。 ・日本と世界の学校制度の違いや課題等を知り、在外教育施設での教育の意義や役割を理解する。 ・グローバルな考え方や多様な価値観に触れ、海外の教育課題やその解決策への関心を広げる。 ・遠隔教育を活用し、在外教育施設に学ぶ児童生徒に対応した授業を構想し、実施・評価・改善できる。 授業の概要 前半の講義においては、受講生に日本と世界の学校制度や課題等を理解させるとともに、それぞれのグローバル体験を振り返り、グローバルな問題を我が事として受け止める感性を養うことをめざす。後半の授業づくりにおいては、在外教育機関並びに当該国の教育事情についての理解を深めた上で、遠隔教育を活用した在外教育機関の児童・生徒を対象とした授業を構想し、模擬授業を実施する。	授業の到達目標 ・複雑化・困難化した課題に向き合うため、教職員に加え、多様な背景を有する人材が各々の専門性に応じて学校運営に参画することが求められていることについて、具体的にイメージすることができる。 ・多職種協働が求められる教育課題に関して、具体的にどのような協働が展開されているか、どのような課題が実態として現れているか、学校や教職員にはどのような役割が求められているかなどについて、自身の言葉で説明することができる。 授業の概要 教職員に加え、多様な背景を有する人材が各々の専門性に応じて学校運営に参画することが求められる教育課題を具体的にに取り上げ、その知識獲得のための講義を行うだけでなく、対話的な学びを積極的に導入することで協働の価値についての理解を図る。

ダイバーシティの理解に関する領域		
選択必修 社会的包摂に関する実践的探究	選択必修 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	選択必修 インクルーシブ教育の理論と実践
授業の到達目標 多様な子どもを包摂するための制度的仕組みや、学校園と連携し補完しあう関係諸機関における支援の実践、包摂を推進するための工夫について理解できる。これによって得られた学びを踏まえ、様々な課題を抱える子どもの将来的な自立のために、社会的包摂の視点から学校園や教員が取り組める教育や支援について考察できる。 授業の概要 多様な子どもを包摂するための制度的仕組み、学校園と連携し補完しあう関係諸機関における支援や包摂のための工夫について解説する。子どもが将来的に社会で自立するために教員にできることは何か考察するよう導く。	授業の到達目標 この講義では、子どもの貧困と児童虐待について、学校現場でどのように課題として教師の前に立ち現れ、そのために教師はどのようにに心理職や福祉職と連携すべきかについて具体的な理解を得る。そして、貧困や虐待の子どもへの援助について、どのように援助していれば良いのかを子どもの個人への援助、学級経営の中での援助に分けて事例分析から理解を得ることができる。 授業の概要 子どもの貧困と虐待を子どもの発達観からの講義及び事例検討を踏まえ、貧困や虐待を受けた子どもへの支援についての留意点を受講生とともに考えていく。	授業の到達目標 インクルーシブ教育に関わる国内及び国外の制度の変遷と現状とともに、特別な教育的ニーズとその子どもたちの基本的課題、指導方法について理解を深めることができる。 授業の概要 インクルーシブ教育に関わる国内外の制度の現状と特別な教育的ニーズのある子どもに関わる基本的課題、指導方法等について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。
選択 インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	選択 通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	選択 外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ
授業の到達目標 特別なニーズのある子どもも含めたインクルーシブな教室・学校環境を構築するために、インクルーシブ教育や障がい概念の理論的内容について理解し、その上で学校現場における実践に必要なアセスメント、支援計画立案、支援の効果検証について計画することができる。 授業の概要 インクルーシブ教育の理念や障がいの社会モデルを踏まえた上で、様々な援助ニーズのある子どもを支援していく際に必要となるアセスメント法や支援計画作成等について解説し、これらを受講者が獲得できるよう導く。	授業の到達目標 通常学級において障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ学級づくりや授業づくりの現状と課題、必要な合理的配慮がなされるすべての子どもが学習に参加することをめざす具体的な方法を理解するとともに、学級づくりや授業づくりに求められる学校内の連携・協働（特別支援学級・保健室）や保護者との関わり・学校経営について解説する。事例検討を通じて、受講者自身が多角的な視点をもつことで実践を捉え直し、教員の役割と専門性を態度に表現させる。	授業の到達目標 外国にルーツのある子どもの多様性と教育課題を知り、特に子どもの学力や学習言語力の向上に向けた在籍学級での支援の意義と方法を理解する。具体的には、次の点を目標とする。 ・子どもの実態把握の視点を理解する。 ・教科指導型日本語指導（教科指導と日本語指導を統合した指導）の方法を理解する。 ・教科指導型日本語指導の観点から授業改善の方法を理解する。 授業の概要 外国にルーツのある子どもの教育について、在籍学級で学級担任や教科担任が行う指導や支援の方法を説明する。特に、学力形成を促す教科指導の方法を、指導案検討を通じて解説し、授業づくりの留意点を解説する。
選択必修 外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ	選択 外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ	
授業の到達目標 外国にルーツのある子どもを取り巻く教育環境の現状と課題を理解し、課題解決の当事者として、学校や教職員がとりうる学校経営や学級経営の改善策を理解する。具体的には、次の点を目標とする。 ・外国にルーツのある子どもの教育環境をめぐる課題とその背景要因を理解する。 ・外国にルーツのある子どもの教育における指導関係者の役割と専門性を理解する。 ・言語的・文化的多様性への理解を深める。 ・実践を捉え直す視点やめざす教育の拠り所となる知識を獲得する。 授業の概要 外国にルーツのある子どもの教育をめぐる課題の背景要因や構造を説明する。課題解決のために、多様な指導関係者との協働の中で求められる教員の役割と資質能力について解説し、モノの見方や判断基準の相対化を図る。	授業の到達目標 外国にルーツのある子どもを取り巻く教育環境の充実や改善に向けて、学校内外で他の教職員等と協働して課題解決できる判断力と行動力を培う。具体的には、次の点を目標とする。 ・教育環境の実態把握に基づき、学校内外の課題を発見する力を培う。 ・課題解決に向けた行動計画を立案・実行・点検し、課題を解決する行動力を培う。 ・課題解決に向けて、他の教職員等と協働する方法と工夫、その多様性を理解する。 ・言語的・文化的多様性に寛容な教育環境の実現に向けた、自己の役割を省察できる。 授業の概要 「外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ・Ⅱ」（M1科目）の授業を通して得た知識等をもとに学校改善や授業改善ができるように、ケースメソッドを通じて、受講者それぞれの立場に応じた課題解決力の獲得を図る。	※教職大学院において共通に開設すべき「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」からなる5領域（計10単位）を設定しており、教職大学院生はすべての領域にわたり履修する必要があります。

》 教職大学院の目的

教職生活全体における高度かつ実践的な教員養成のための専門職大学院

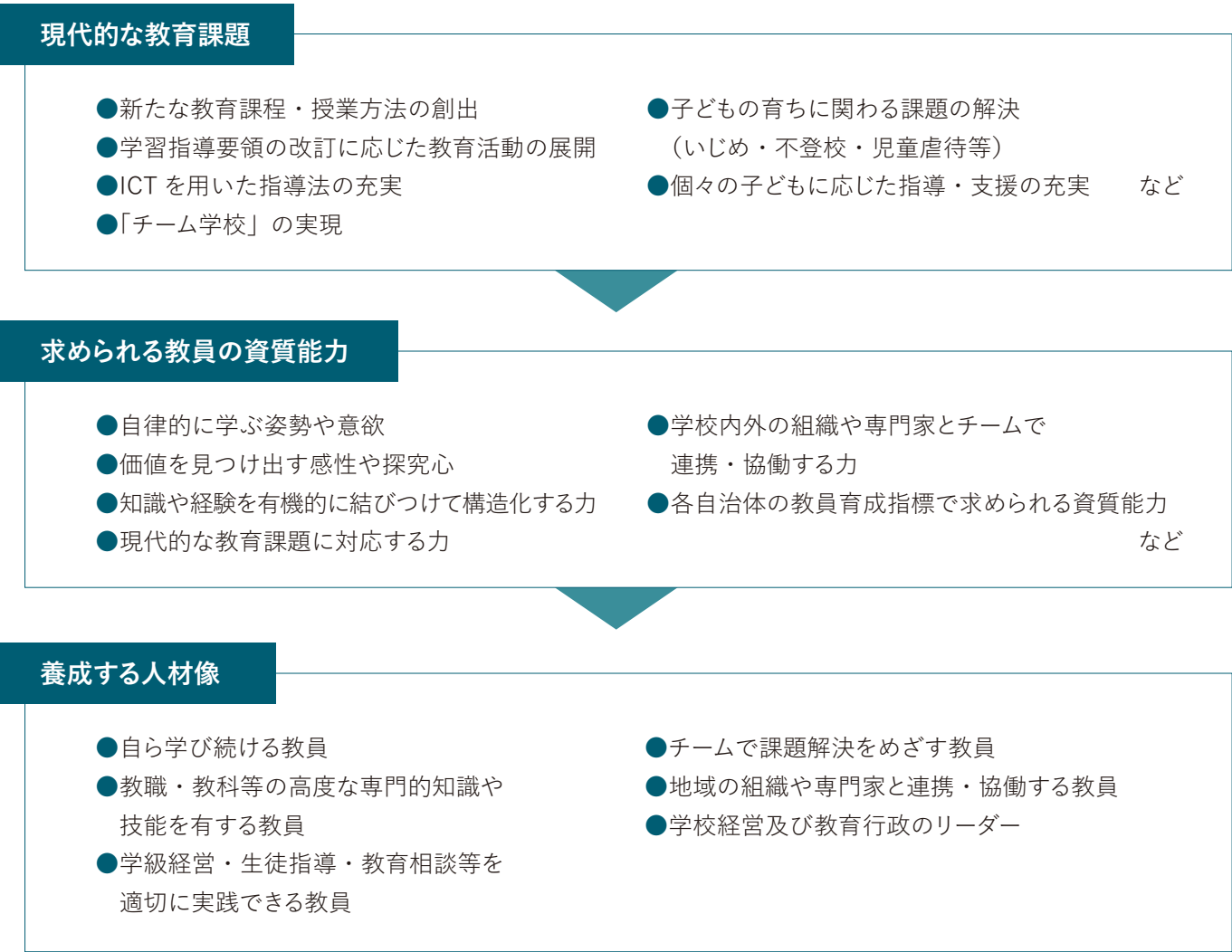
近年、教員の養成・採用・研修等を通じて、教員が教職生活全体の職能成長を実現する環境づくりが進められており、教職大学院は高度専門職業人養成に特化した大学院として、全国に設置されています。

学部段階の資質能力を基盤に深い教職専門性と実践的指導力を兼ね備える新任教員を養成

教員養成系大学あるいはその他の大学の学部新卒者に、それぞれの特色を生かした資質能力にさらなる教職専門性と学校現場に即応できる実践的指導力を培い、学校の有力な一員となる新任教員を養成します。

学校の組織的課題・子どもの教育課題に応じた教育実践力や指導的役割を発揮する現職教員を養成

多様で複雑化する学校の組織的課題や子どもの教育課題を適切にとらえ、それらの課題解決をめざす確かな教育実践の展開に指導的役割を果たすことができる、学校の中核となる教員を養成します。



》 修了要件

専門職学位課程に2年以上在学し、所定の科目を46単位以上修得することを要件としています。

科目名	単位数	内 容
研究科共通科目 (共通5領域・ フラッグシップ 大学特例領域)	20	共通5領域科目では「カリキュラムの編成原理とマネジメント」、「学習指導の実践的展開」、「生徒指導と教育相談の実践的課題」、「学校経営と学級経営の理論と実践」、「学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造」を必修科目とし、フラッグシップ大学特例領域科目では「教育におけるDXとSTEAMの理論と実践」や「グローバルスタディーズの展開」、「多職種協働による組織マネジメント」を必修科目とし、選択必修科目として「社会的包摂に関する実践的探究」、「子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践」、「外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ」、「インクルーシブ教育の理論と実践」を設定しております。10科目20単位を修得します。 ※共通5領域とは…教職大学院において共通に開設すべき「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」からなる5領域(計10単位)を設定しており、教職大学院生はすべての領域にわたり履修する必要があります。 ※フラッグシップ大学特例領域とは…教員養成フラッグシップ大学の指定を受けたことによる「教職大学院の共通5領域の必修単位数の弾力措置」を活用した独自の領域・科目を設定したもの。
学校実習科目	10	「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ」(特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」)の計4科目10単位を修得します。
コース必修科目	6	各コースが目標とする資質能力を育成するための科目を設定しています。詳細については、授業科目一覧(スクールリーダーシップコース・援助ニーズ教育実践コース:23ページ、教育実践力コース・特別支援教育コース:24ページ)をご参照ください。
課題研究科目	4	入学時から明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、課題解決に向けた実践的探究を進めます。「実践課題研究Ⅰ」と「実践課題研究Ⅱ」の計2科目4単位を修得します。
自由選択科目	6	研究科共通科目の選択科目やコース科目の選択科目の中から6単位を修得します。一部の科目を除いて、他コースの開講科目からも選択できます。

》 学位

「教職修士(専門職)」の学位が授与されます。

》 取得できる免許状

取得しようとする免許状の一種免許状を修了年度に有していることが必要です。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教)
- 高等学校教諭専修免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教)
- 養護教諭専修免許状
- 特別支援学校教諭専修免許状(※特別支援教育コース所属学生に限る)
(視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者)

》 機能強化

「学びたい」というニーズに応え、学部卒院生がスムーズに学べ、
現職教員院生が通いやすい教職大学院に機能強化しました。

よりスムーズに 学部卒院生に向けて

- 学部と教職大学院が接続する教員養成プログラムを展開しています。
- 学部との接続を図るため、柏原キャンパス(昼間)においても援助ニーズ教育実践コースを展開しています。
- オンラインの活用により、両キャンパスの科目が履修できます。
- 天王寺キャンパス(夜間、土曜)においても修了に必要な科目が履修できます。

より通いやすく 現職教員院生に向けて

- 現職教員の教科教育や特別支援教育の学びのニーズに応え、多様な育成段階の教員が共に学び合う教育を行うため、教育実践力コース及び特別支援教育コースを天王寺キャンパス(夜間)においても展開しています。
 - オンラインによる授業を拡充し、現職教員が学びやすい環境を整えています。
- ※長期休業日や土日を利用しての対面授業も取り入れながら、平日は同時双方向やオンデマンドなどのオンライン受講での修了が可能です(学校実習科目等一部の科目を除く)。

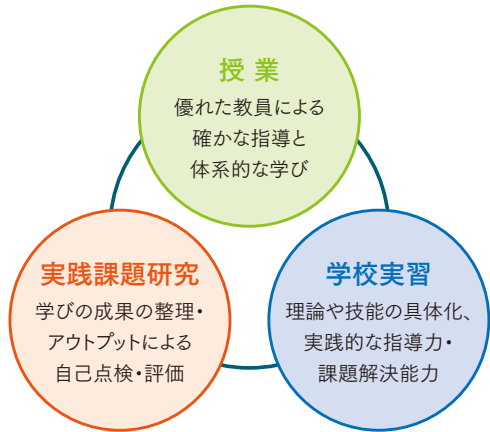
》 大学院キャンパスと学校現場を
フィールドとした学び

理論と実践の往還・融合

自らが設定した課題の解決に向け、授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びとの往還を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構築しています。

指導体制

教職大学院生には、主指導教員・副指導教員が割り当てられ、研究者教員と実務家教員、教職専門系教員と教科専門系教員といった、複数の視点で指導できる体制を用意しています。



〔 理論と実践の往還・融合 〕

》 授業

教職に求められる実践的指導力を向上させるカリキュラム

大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会が掲げる教員育成指標と対応させたディプロマ・ポリシー(学位授与方針)を、各コースで設定しています。つまり、学校現場で求められる理論や実践動向を科目の中で体系的に学び、学校実習等でそれを実践しながら、実践的指導力を高めていける環境があります。また、全ての教職大学院生が共通に履修する研究科共通必修科目は、研究者教員と実務家教員のタッグによるチームティーチングにより授業を展開し、理論と実践の往還の一助となります。

すぐれた教員による確かな指導

150名におよぶ大学教員が全学的な協力体制のもと、教職大学院生の指導・支援を行います。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績を有し、中には、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験を有している教員もいます。また、学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた実務家教員は、教職大学院生にとってのよき教職モデルです。これらのすぐれた教員による確かな指導によって、実践力や探究力等を高めていきます。



》 学校実習

学校実習の主な目的は、学部の教育実習とは異なり、教員免許状を所持する教職大学院生が高度な実践力を備え、教職力量を形成・向上させることです。実際の学校教育活動(保育活動)に参画しながら、自ら設定するテーマについて理論と実践の往還・融合を図り、学校園等の諸課題の解決や改善の提案及び幼児・児童・生徒の資質・能力の育成など学校教育に貢献することをめざします。

教職大学院入学時に学部新卒で教員経験の少ない教職大学院生も、教員としての基礎的理解をふまえ、自らの実践を省察し、高度化させ、職能の成長をめざします。

時 期		科 目 名	時間数	単位数	実習先
1 年 次	前期	基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅲ(特別支援)	60時間以上	2単位	勤務校等での実習 :勤務しながら教職大学院で学修する現職教員院生は、原則として自身の勤務校等において学校実習を行います。 配当校での実習 :休業制度等を利用し勤務校等を離れ教職大学院で学修する現職教員院生や学部卒院生は、原則として配当校で学校実習を行います。
	後期	基本学校実習Ⅱ 基本学校実習Ⅳ(特別支援)	60時間以上	2単位	
2 年 次	前期	発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅲ(特別支援)	90時間以上	3単位	※現職教員院生(勤務経験3年以上)においては、定められた手続きにより履修免除を願い出、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習Ⅰ・Ⅲ(特別支援)」の履修を免除されます。 ※配当校は、学校実習を受け入れていただける大阪府内の連携協力校から、複数の要件・情報等をもとにマッチングします。
	後期	発展課題実習Ⅱ 発展課題実習Ⅳ(特別支援)	90時間以上	3単位	

》 実践課題研究

課題研究科目として、「実践課題研究Ⅰ・Ⅱ」(必修4単位)を修得し、実践課題研究報告書としてまとめ、研究発表を行います。実践課題研究は、1年次からの「学校実習」と関連させ、1年次での学びの成果を整理しながら、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組についてまとめます。実践研究の過程においては、課題解決のプロセスをR-PDCAサイクルに基づいて自己点検・評価することが重要です。また、実習校園等のスタッフとのコミュニケーションの中で取り組むことも必要です。このようなプロセスを通して、自らの研究課題の解決能力の向上、学校や地域が抱える教育課題の解決への貢献をめざしています。

実践課題研究のテーマ例	
現職教員院生	「観点別学習状況の評価」の全面実施にむけた実践 高等学校における環境整備
	組織の変革におけるミドル・アップダウン・マネジメントに関する研究 ー学校マネジメントにおいて首席が果たす役割を中心にー
	知的障がい支援学校における農業学習と キャリア形成の力の把握に関する実践的研究
学部卒院生	通常学級における読み書きで困難を示す児童への正確性及び 流暢性に焦点を当てた指導・支援
	小・中学校の単元間の系統性を意識した 中学校入門期における指導への提言
	力学と熱に対して主体的に学習に取り組む態度の育成と評価

》 リフレクション・ミーティング

リフレクション・ミーティング(RM)とは、学校実習での取組を振り返る機会や、他者が理解可能なように成果や課題をまとめ発信する場を意味します。RMには下のような種類があります。

名 称	実施時期	実習内容
個別 RM	随時	・大学院指導教員が実習校園等を訪問し、教職大学院生の学修状況を確認しながら指導・助言する。必要に応じて実習校園等の指導者や教職員とも振り返りの機会を設定する。 ・主指導教員が、大学院で個別・ゼミ形式で指導・助言する。
コース RM	8月及び 2月	・学校実習での取組について発表し、教職大学院生間で相互に交流するとともに、副指導教員や大学院の関係教員から助言を受ける。 ・参加者との質疑応答、意見交換等をする。
全体報告会	2～3月	・各コース代表の教職大学院生が、学校実習の取組に関して発表する。



》 主な修学時間帯及びキャンパスについて

援助ニーズ教育実践コース、教育実践力コース、特別支援教育コースのいずれかのコース(昼夜間展開するコース)に所属する教職大学院生は、自身で＜昼間＞＜夜間＞の主な修学時間帯を選択します。

※スクールリーダーシップコースの教職大学院生は、原則、夜間のみ（集中講義や学校実習科目等を除く）の修学となります。

昼夜間展開するコースの教職大学院生は、平日及び土曜日の1限から7限までに開講されている授業科目、長期休業中に開講される集中講義等から履修する科目を選択することができます。

昼間授業	夜間授業	集中講義
1～5限 (8時50分～17時55分) 対面授業は主に 柏原キャンパスで開講	6・7限 (18時00分～21時10分) 対面授業は主に 天王寺キャンパスで開講	長期休業中や不定時に 開講される授業 開講時期・開講場所は、 時間割・シラバスに記載

また、全コースとも、多くの授業が同時双方向・オンデマンド等のオンライン授業(対面開講とのハイブリッド展開も含む)に対応しており、昼間に実習校園等で実施する学校実習科目以外の授業を、オンラインのみで単位修得することが可能です。



● 昼間授業

1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
8:50 ～ 10:20	10:35 ～ 12:05	12:55 ～ 14:25	14:40 ～ 16:10	16:25 ～ 17:55

スクールリーダーシップコース

夜 間

対 象	現職教員等（勤務経験3年以上）（※）
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	● 保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員 ● 教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員

援助ニーズ教育実践コース

昼 間 夜 間

対 象	現職教員等・学部卒学生等
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	● 多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身につけた教員 ● 「チーム学校」の考えに基づき、学校園内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員

教育実践力コース

昼 間 夜 間

対 象	現職教員等・学部卒学生等
募集人員（目安）	80 名
養成する人材像	● 児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価を行える能力を身につけた教員 ● 教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員

特別支援教育コース

昼 間 夜 間

対 象	現職教員等・学部卒学生等
募集人員（目安）	10 名
養成する人材像	● 特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身につけた教員 ● 特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員

※「現職教員等」とは学校教育法第1条に規定する幼稚園（幼保連携型・幼稚園型認定こども園を含む）・小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校で常勤（任用の期限がある常勤講師は含まない）で勤務している方、又は都道府県もしくは市区町村の教育委員会及び国公立の教育センター等において指導主事として勤務している方。ただし、TSコースの入学条件は、特別支援学校教諭2種免許以上を保有していて、かつ、学校実習は、特別支援学校または教育センター等で行うことが条件となります（小中学校等の支援学級での実習は不可。また、教育センター等で実習の場合は、専修免許取得はできません）。
なお、全コース共通で、令和8年3月31日以前に退職する予定の方は除きます。
経験年数は、1か月未満の場合は1か月として計算し、入学願書裏面の職歴欄より確認します。休職期間（育児休業、国際派遣等も含む）は、経験年数に算入しません。

● 夜間授業

6 時 限	7 時 限
18:00 ～ 19:30	19:40 ～ 21:10

協働力とリーダーシップを育てる

スクールリーダーシップコース

概 要

スクールリーダーシップコースは、「保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員や教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員」をめざすコースです。

事例研究やそれぞれの課題に応じた専門的かつ多元的な学びから、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を身につけることができます。

現職教員等の学校実習では、勤務先において同僚を巻き込みながら改革へつなげていく実践を通して、スクールリーダーとしての力量を向上させていきます。

履修モデル

(参考) 令和6年度入学者カリキュラムに基づく

研究科共通必修	研究科共通選択必修	コース必修	コース選択
学校実習科目	課題研究科目必修	コースRM	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
M1	学習指導の実践的展開 生徒指導と教育相談の実践的課題 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 インクルーシブ教育の理論と実践	学校経営と学級経営の理論と実践					カリキュラムの編成原理とマネジメント グローバルスタディーズの展開					
			子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 スクールリーダーシップの理論と実践				学校改善のためのアクションリサーチ スクールリーダーのマネジメント				チーム学校の実践的展開	
		基本学校実習Ⅰ			コースRM		基本学校実習Ⅱ				コースRM	
M2	メディア・情報リテラシー教育の実践的展開		多職種協働による組織マネジメント 学校における人材育成の理論と実践					学校組織開発		学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造		
		発展課題実習Ⅰ			コースRM		発展課題実習Ⅱ				コースRM	

この履修モデルはあくまで一例です。
スクールリーダーシップコースでは多くの選択科目を提供しており、教職大学院生はそれぞれ自身の目的に応じて様々な科目を履修します。
コースRMは実習の振り返りの場で、実習科目の内容の一部です。全体報告会は修了予定者が自身の学びを振り返り、報告する会であり、履修科目ではありません。

コース代表のコメント

スクールリーダーシップコースには、自分自身の力量の向上に取り組むだけでなく、同僚とともに勤務校園等の教育活動の質を高めていくことを志す皆さんが集まります。そのような皆さんに相応しい体系的なカリキュラムを提供し、皆さんの実践知を理論づけたり、理論知から新たな実践を開発したりすることができるように工夫されています。

皆さんにとって、将来にわたりがけがえのない存在となるのは、共に学び合う仲間たちです。多様な校種や地域から、教科専門性や年齢層も異なる現職教員院生が集います。そして、現職教員院生同士、相互に切磋琢磨しながら、学びを創り上げていきます。私たち教員陣は、その学びを強力にバックアップします。在学中はもちろんのこと、修了後も頼りになる仲間が財産となります。

私自身も経験がありますが、勤務をしながら夜間の大学院で学ぶためには、それなりに頑張りが必要ですが、しかし、その頑張りには、在学中から様々な形で報われます。皆さんの世界がより一層広がることを感じられるはずです。一緒に、楽しみながら、明日の教育、明日の学校、明日の自分を創りませんか？



田村 知子 教授

多様な子どもたちのニーズへ協働的にアプローチする

援助ニーズ教育実践コース

概 要

援助ニーズ教育実践コースは子ども一人ひとりの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践について学んでいくコースです。
現代的な教育課題である子どものいじめや不登校、問題行動に加え、発達障がい、健康課題等、幼児・児童・生徒一人ひとりのの中に複合的に存在する援助ニーズへの対応力を身につけ、子どもに笑顔と前向きな気持ちが生まれるよう、「チーム学校」の考え方に基づいた協働的な援助ができる教員になるために必要なことを学べます。

履修モデル

(参考) 令和6年度入学者カリキュラムに基づく

研究科共通必修	研究科共通選択必修	研究科共通選択	コース必修
コース選択	学校実習科目	課題研究科目必修	コースRM

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
M1	学習指導の実践的展開 教育におけるDXとSTEAM教育の理論と実践 生徒指導と教育相談の実践的課題 インクルーシブ教育の理論と実践 援助の理論と協働的援助	学校経営と学級経営の理論と実践				グローバルスタディーズの展開 臨床的研究入門Ⅰ カリキュラムの編成原理とマネジメント 外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ			インクルーシブ教育の実現に向けたアセスメントと支援 保護者との協働的援助 予防的な関わりと協働的援助 就学前の子どもの援助のための政策・システム		臨床的研究入門Ⅱ	
			子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ				いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ 障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ					
M2	共生社会を目指した協働的援助 メンタルヘルス課題の理解 就学前の援助ニーズへの多様な支援		多職種協働による組織マネジメント 通常学級におけるインクルーシブ教育の実践 学校危機における援助ニーズ					学校経営における学校保健及び保健室のマネジメント 教員のための応急処置の基礎と実践	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造 社会的包摂に関する実践的探究			

この履修モデルはあくまで一例です。
援助ニーズ教育実践コースでは多くの選択科目を提供しており、教職大学院生はそれぞれ自身の目的に応じて様々な科目を履修します。
コースRMは実習の振り返りの場で、実習科目の内容の一部です。全体報告会は修了予定者が自身の学びを振り返り、報告する会であり、履修科目ではありません。

コース代表のコメント

援助ニーズ教育実践コースは子ども一人ひとりの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践について学んでいくコースです。

昨今、子どもを取り巻く環境、子どもの抱える課題は多様化しています。子どもの自立と成長を支援するために、教員は自らの専門性を高めると共に、学校園内外の多様な専門性を持つ方々と連携・協働することが求められています。

本コースでは、幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭や養護教諭の免許を有する皆さんが、様々な立場や視点を持ちながら教育課題の解決に向けて学んでいます。授業では「援助ニーズに応える教育実践」について多彩なアプローチから学びを深め、様々な校種や立場の現職教員と学部卒の皆さんがお互いの立場や視点の違いからの気づきを実践における連携・協働に活かそうと取り組んでいます。

修了生は教職大学院で学ばれたことをもとに、学校園等の課題の解決に向けて、活躍されています。皆さんも様々な学問領域の知見を融合させ、実践を振り返り、「現在と未来を生きる子どもたちの援助ニーズに応える教育実践とは何か」という重要なテーマをともに考えてみませんか。



瀧野 揚三 教授

教科横断的な視野を持った高度な教科指導力を育成

教育実践力コース

概 要

教育実践力コースは、教育現場の実情に応じた教材研究、指導法の開発、授業改善、今日的な教育課題に対応した方策を自身のテーマとして持ち、理論と実践を踏まえて検討することに重点をおいて学ぶコースです。

それぞれの理想の教員像をめざしながら、教育現場から求められ、教育課題の解決を図ることができる教員になるために必要なことを学べます。コース必修科目では教育実践の研究手法、教育評価、探究学習について、コース選択科目としては教科教育系科目（授業研究、高度授業研究）と教科専門系科目（教材・題材開発研究、高度教科内容研究）から自身の専門や学びたい内容を選択することができます。

履修モデル

（参考）令和6年度入学者カリキュラムに基づく

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
M1	生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 カリキュラムの編成原理とマネジメント 学習指導の実践的展開 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 教育実践の研究手法				教材・題材開発研究 [コミュニケーション・コンピテンシー]		教材・題材開発研究[消費者教育]		教育評価の理論と実践			
			子どもの貧困及び 児童虐待の理解と教育実践 授業研究[道徳]			グローバルスタディーズの展開						
			基本学校実習Ⅰ		コースRM		基本学校実習Ⅱ				コースRM	
						実践課題研究Ⅰ						
M2	探究学習の開発と実践			多職種協働による 組織マネジメント			高度授業研究[総合的な学習の時間]		学校安全と人権を核にした 教師力・学校力の創造			全体報告会
			発展課題実習Ⅰ		コースRM		発展課題実習Ⅱ				コースRM	
						実践課題研究Ⅱ						

この履修モデルはあくまで一例です。教育実践力コースでは多くの選択科目を提供しており、教職大学院生はそれぞれ自身の目的に応じて様々な科目を履修します。コースRMは実習の振り返りの場で、実習科目の内容の一部です。全体報告会は修了予定者が自身の学びを振り返り、報告する会であり、履修科目ではありません。

コース代表のコメント

教育実践力コースでは、現代の教育現場が直面している課題に対応できる高度な指導力と学校マネジメント力を備えた教員を養成します。

近年、教員の過重労働や人手不足、いじめや不登校、学力格差、ICT教育推進の課題、SNSを通じたトラブルなど、教育現場が抱える課題は多様化・複雑化しています。こうした状況の中で、個別最適な学びや、誰一人取り残されない学びの保障が強く求められています。そのため、教員には児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた柔軟な指導力が必要とされています。

本コースでは、こうした教育課題に対応できる高度な実践力を備えた教員を養成するため、理論と実践を往還しながら指導力を磨くカリキュラムを用意しています。例えば、ICT機器や生成AI、IoT、XRなどの最先端技術を活用した授業設計や、デジタル工作機械・ゲーミフィケーションを取り入れた創造的な学びを実践的に学びます。また、PBL（課題解決型学習）やSTEAM教育を取り入れた指導法を学ぶことで、生徒の主体的な学びを促す指導スキルや、メタ認知力を育成する指導スキルを身につけます。さらに、教育・校務のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、業務の効率化を図ることで、教員が教育活動に集中できる環境を整える知識とスキルを獲得します。

現代の教育課題に対応できる指導力を身につけ、教育現場を支える存在となってください。私たちは、教育現場をより良くしたいという皆さんの熱意を全力でサポートします。



成田 一人 教授

障がいのある子ども一人ひとりに対応した支援を

特別支援教育コース

概 要

特別支援教育コースは、学校での実習を通して、実際の教育現場というフィールドを大切に、障がいのある子ども一人ひとりの実態やニーズの把握に必要な洞察力と、それらに基づいて授業を展開できる実践力を磨いていくことを目標に学ぶコースです。

インクルーシブ教育システムの観点から、特別支援学校、幼稚園、小・中・高等学校での特別なニーズのある子どもを理解し支援することができる教員になるために必要なことを学べます。

履修モデル

（参考）令和6年度入学者カリキュラムに基づく

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
M1	生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 カリキュラムの編成原理とマネジメント 学習指導の実践的展開 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 インクルーシブ教育の理論と実践 特別支援教育の現代的課題					グローバルスタディーズの展開						
								特別なニーズのある子どもの 生理と病理			特別支援教育の教育課程と授業論 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 インクルーシブ教育の理論と実際 特別支援教育コーディネーター論	
			基本学校実習Ⅲ（特別支援）		コースRM		基本学校実習Ⅳ（特別支援）				コースRM	
						実践課題研究Ⅰ						
M2				多職種協働による 組織マネジメント				教育相談支援 の理論と実際		特別なニーズのある 子どもの臨床	学校安全と人権を核にした 教師力・学校力の創造	全体報告会
	発達障がいのある子どもの理解と支援				発展課題実習Ⅲ（特別支援）	コースRM		発展課題実習Ⅳ（特別支援）			コースRM	
						実践課題研究Ⅱ						

この履修モデルはあくまで一例です。特別支援教育コースでは多くの選択科目を提供しており、教職大学院生はそれぞれ自身の目的に応じて様々な科目を履修します。コースRMは実習の振り返りの場で、実習科目の内容の一部です。全体報告会は修了予定者が自身の学びを振り返り、報告する会であり、履修科目ではありません。

コース代表のコメント

特別支援教育コースでは、学校での実習を通して、実際の教育現場というフィールドを大切に、障がいのある子ども一人ひとりの実態やニーズの把握に必要な洞察力と、それらに基づいて授業を展開できる実践力を磨いていくことを目標にしています。

また、本コースには、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、発達障がいといった各領域における高い専門性をもつ教員が在籍しています。多様な講義や教員との対話を通して、現在の特別支援教育の課題や各障がいについての理解を深め、また、教材の開発や授業改善についても学びを深めることができます。

近年、インクルーシブ教育推進の重要性が一層増しています。特別支援教育コーディネーターの役割重視、授業のユニバーサルデザイン化が求められていることなどからもわかるように、特別支援教育に携わる教員は、特別支援学校あるいは特別支援学級における教育実践を深めると同時に、通常の学校、通常の学級における教育への視点を養う必要性もあります。特別支援学校をはじめとして、特別支援学級や通常の学級など、様々な教育の場において、障がいのある子ども一人ひとりが輝く教育をめざして、一緒に学びを深めてみませんか。



正井 隆晶 准教授

教職大学院生共通

オンライン授業科目の拡充

教職大学院生が学びやすい環境を整えるため、学校実習科目等の一部科目を除くほとんどの授業科目について、オンライン対応をしています。

3コースを 2つのキャンパスで展開

援助ニーズ教育実践コース、教育実践力コース、特別支援教育コースを柏原、天王寺の両キャンパスに設置しています。学部卒院生はよりスムーズに学部と接続ができ、現職教員院生は多様な育成段階の教員と共に学びやすくなっています。

仲間と出会える

連合教職大学院には、現職の指導主事や、また学部卒院生も在籍しています。学校間、校種間、教科間、さらには世代を超えた教職大学院生同士の多種多様なつながりが生まれます。そのつながりは、校種間連携や教科横断的な視野を広げるだけにとどまらず、在学時はもちろん、修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

フラッグシップ大学 特例領域科目の設置

フラッグシップ大学特例領域科目と関連させた高度教職プログラムを設置。北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学の3大学が共同設置した共同学校教育学専攻(後期3年をみの博士課程)への進学につながる「臨床的研究法入門Ⅰ・Ⅱ」で研究法を学べます。

専修免許状を 取得できる

連合教職大学院では、幼・小・中・高・養護・特別支援(視・聴・知・肢・病)の専修免許状を取得することができます。取得のためには、①取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有していること、②取得しようとする免許状の課程認定を受けた授業科目を24単位以上修得すること、の2つの条件を満たす必要があります。

教職修士(専門職)の 学位を取得できる

連合教職大学院に2年以上在籍(長期履修制度を利用した場合は3年)し、所定の科目を46単位以上修得のうえ修了することで、教職修士(専門職)の学位を取得することができます。

2年間で300時間以上の 学校実習

学校現場での体系的かつ長期の実践経験を、子どもたちと関わりながら積み上げることができます。学部卒院生は、学部段階での教育実習とは異なり、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察することができます。現職教員院生は、授業で学んだ理論を勤務校における組織的かつ長期的な実習を通して検証することが可能です。

学校心理士の 資格認定審査に申請が可能

令和2年度より、学校心理士の申請類型に、教職大学院類型が加わり、教職大学院修了者及び修了見込み者も学校心理士の資格認定審査に申請することが可能となりました。詳細は、学校心理士認定運営機構のウェブページをご確認ください。

大阪教育大学連合 教職大学院の魅力

現職教員院生

自らの経験に確かな理論を

これまでの教職経験で培った実践的知見と教職大学院での先進的な教育研究に基づく理論的な知見とを統合させることで、理論に裏付けられた教育実践力を身につけることができます。これにより、自らの実践の優れた点については確かな根拠を持ってより一層伸ばしていくことが可能となり、また課題点についても理論に基づいて具体的に改善していくことが可能となります。

学びを実践に生かせる

協働的な学び、ICTを活用した授業、生徒指導など、教職大学院での学びをすぐ自身の授業や指導に生かすことができます。先進的な研究や理論に基づく教育実践を学校現場で展開していくことによって、幼児・児童・生徒のより一層の成長に繋げることができます。

勤務しながら学べる

とりわけ天王寺キャンパスは交通アクセスがよいため、大阪府外から通っている教職大学院生が多数います。なお、2年で修了するのが困難な方を対象とした長期履修学生制度を活用し、3年かけて学ぶことが可能です。

勤務校等が抱える 課題解決に挑む

勤務校等の教育課題等を踏まえた実践課題研究テーマを設定し、教職大学院での2年間の学びの中で、同僚との協働や、大学教員が勤務校等を訪問しての助言・指導等、学校・教職大学院生・大学教員のチームで、勤務校等が抱える教育課題の解決に挑みます。

実務経験により 学校実習科目が一部免除

勤務経験3年以上の現職教員院生は、定められた手続きにより履修免除を願い出て、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習Ⅰ・Ⅲ(特別支援)」の履修が免除されます。

学部卒院生

教職に関して より深く勉強できる

連合教職大学院では、その名の通り、教職に関する科目を多数用意しています。学部卒(特に教育学部でない学部)の方は、深い教職専門性を培うことができます。

教員採用試験が 一部免除に

自治体によっては、教職大学院生に対して教員採用試験における試験の一部免除や、教職大学院卒としての学内推薦の制度を利用することができます。

教員採用試験の支援

試験対策の一環として、筆記試験だけでなく、集団討論・面接・模擬授業・場面指導等の対策講座を実施しています。

名簿登載期間の 延長措置が可能

自治体によっては、入学前及び在学中に教員採用試験に合格した場合、申請手続きを行うことで、名簿登載期間の延長措置が可能です。
※名簿登載期間の延長がない自治体でも、採用試験の一部免除が可能な場合があります。

1年を通じて 学校現場と関われる

学校実習の一環として、児童生徒等や教職員と交流し、実習先の様々な教育活動及びその補助に携わることで、子どもの変化や成長の様子を長期的に捉えることや、組織の同僚との協調性を身につけること等をねらいとしています。学部での教育実習では体験できない学びと言えます。

仲間と切磋琢磨できる

グループでの学習や討論、実習の振り返りに利用できる協働学習室を備え、様々な学習の形に対応しています。

私は、教育現場で求められる力をつけ、教員としてレベルアップするために教職大学院に進学することを決めました。

学部生の頃は専門であるスポーツに興味を持って学びを深めていましたが、卒業後教員になって現場に出るには教育に関する知識や教員という仕事に対する理解が足りていないのではないかという不安がありました。そこで部活の先輩に勧められたのが教職大学院への進学でした。

教職大学院では教員をめざす仲間だけでなく、今まさに教員をしている方や教員の経験がある方と共に学ぶことができます。講義内のグループワークなどでもそういった教育現場の経験がある方の意見は勉強になりますし、話し合いにリアリティが生まれます。

さらに、学校実習があり、講義で得た学びが机上だけで終わらないのも良い所です。教職大学院で学びながら実習校で教員たちの動きを見たり授業を見学したりすることで、見え方や考え方が変わります。そこで学びがダイレクトに自分の将来のためにになっているのを実感できます。

卒業後すぐに教員として働き始めることに不安がある方や、より質の高い教員になりたい方は、ぜひ教職大学院への入学を考えてみてください。

教育実践力コース（M2）
大阪教育大学出身
在学教職大学院生

田中 陽介 さん



私は、明確な目的をもって教職大学院に進学しました。教職力量の向上、学部時代の研究の継続、学校心理士の資格取得です。

教職大学院では、授業を受けながら長期の実習に取り組みます。学んだ理論をすぐに実践する機会があることで、理論に裏付けられた実践力を養うことができます。

研究においては、学部時代にお世話になった先生方と共同研究をおこなっていました。立体印刷の技術を用いて、視覚障がいのある方々に美術作品を伝える触図の開発に努めています。

学校心理士の資格は、必修科目に加えていくつかの授業を履修することで、資格認定審査への申請が可能になります。現在は審査を受けている途中ですが、美術科教育の専門的知識と学校心理士の視点を併せもっていることを強みとして奔走できる教員をめざしています。

このように教職大学院では、時間と環境を目一杯に活用して自己の学びに向かうことができます。また、それをともにできる仲間とも出会えます。教員となる我々の選択が、まだ見ぬ子どもたちの未来につながります。一緒に、教育について考えてみませんか。

令和6年度修了
教育実践力コース（修了）
大阪教育大学出身
和歌山市立有功中学校

乾 ことみ さん



私は工学部から教職大学院へ進学しました。学部生時代の教育実習を通して、「教職の知識が足りない」「今の自分では教員になる力がまだ身についていない」と実感する部分が多くありました。教職に関してより深く勉強がしたいと思い、教職大学院への進学を決めました。

教職大学院では、授業を通じて教職の基礎をより高めることができるだけでなく、学校実習において組織的課題や生徒の教育課題の解決をめざす教育実践を追求することができます。学校実習は2年間で300時間以上が設定されており、教育実習と違って長期的に学校現場に関わることができます。教職大学院生は学部卒業時に教員免許を取得しているため教員として授業を実施できたり、学級経営や生徒指導などの教育活動全体を体験したり、現場の生徒と教員と関わることでできる非常に貴重な機会となります。このように理論と実践の往還を通して、課題解決能力を身につけることもできます。

私は教職大学院に進学して、進学前の自分が本当に力不足だったことを痛感するとともに、たくさんのことを学んでいる今の自分は確実に成長できていると実感しています。教育に関して研究したいことがある人だけでなく、教員をめざしているけれど自信がない人も教職大学院への進学を前向きに検討してみてください。同じ志を持つ仲間たちと出会い、互いに高め合える有意義な学びの時間が待っています。

教育実践力コース（M2）
近畿大学出身
在学教職大学院生

堤 美羽 さん



「このまま私は先生として、教壇に立てるのか」

学部で学ぶ内容は、各教科の指導法や教員としての基本を学ぶことが多く、教育実習との差を感じました。集団指導はある程度の個々の指導をもとに構成されています。私は個々の指導事項を把握できておらず、教育実習では上手に指導できない場面が多くありました。

そして、大学3年生での教育実習後の自分は「教壇に立つ前に子どもたちのことをもっと知るべきだ」と思い、教職大学院への進学を志願しました。

教職大学院では、「理論と実践の往還」のもと、たくさんの指導法や個別のニーズに特化した支援と指導法について学ぶことができます。これらたくさんの理論は、教育実習中に悩んでいたことや、入学して2年間行われる学校実習へのヒントとなります。また「子どものために学びたい!」という同じ志を持った教職大学院生が、世代・年齢・学校園を超え、つながりを持つことができ、このつながりは現場に出た際の糧にもなります。

教師のよさは、教師年数・経験関係なく「先生」と呼ばれ、同じ先生として学び合うことができることだと思います。

「あなたが学べば学ぶほど、子どもは笑顔になることができる」と 생각합니다。教職大学院にご入学された際には、ぜひ一緒に子どもの居場所や将来について考えることができればと思います。

援助ニーズ教育実践コース（M2）
大阪大谷大学出身
在学教職大学院生

十倉 蓮 さん



在学教職大学院生・修了生からのメッセージ

私は、校長に就任した当初から、自分のリーダーシップやマネジメント力に自信が持てずにいました。加えて、予測困難な未来を生き抜く子どもとその子どもを育てる教職員を育成するためには、変化する世の中の流れを追いかけただけでなく、その流れに追いつき、追い越すぐらいの知識や実践力が必要だと考えています。そこで、最先端の教育について学び、実践力を高めるために、教職大学院への入学を決意しました。

日々の業務との両立が不安でしたが、オンラインと対面での受講を組み合わせることで、無理なく学ぶことができています。また、先生方も教職大学院生一人ひとりの状況をよく理解し、親身に関わってくださいます。勤務校での様々な対応に神経をすり減らすこともありますが、先生方や教職大学院生の皆さんと学んだ後は、自分の視野が広がり、明日も頑張ろうという気持ちになります。すばらしい学びの場と熱心な先生方、そしてともに学ぶ仲間たちとの出会いは、私にとって何物にも代えがたい宝物です。

今、私は、学ぶことの楽しさや学び続ける必要性を実感したと同時に、学ばないことの怖さにも気づくことができました。未来を生きる子どもたちのために、私たちと共に学び、高め合いましょ。

スクールリーダーシップコース（M2）
北九州市立大学出身
在学教職大学院生
堺市立晴美台中学校

上川 紀久恵 さん



私は、経済学部を卒業し、一般企業での勤務を経て教員となりました。そのため、教育を専門的に学んだ自覚がありませんでした。それでも経験を重ね、教職力量を高めてきました。一方で、自分の学校や教育に対する見方・考え方が“概ね経験のみに基づくこと”に大きな不安がありました。そんな時、教職大学院のパンフレットにあった「自らの経験に確かな理論を」との言葉に背中を押され受験を決意しました。

教職大学院での学びはとても充実しています。授業や教職大学院生同士の対話によって自らの考えが更新され、学校や教育を理論に基づく見方・考え方で捉えることができるようになったと実感しています。

また、授業は対面の授業と並行し、同時双方向オンライン配信が行われています。私は対面参加を主として、繁忙期にはオンラインで出席しています。さらに、出席できない場合には、授業の録画を配信していただけることから、仕事と両立して学ぶことができています。このように、通学時間や仕事との両立を理由に入学を迷われている方でも学びやすい環境が整っています。

働きながら教職大学院で学ぶことは大変です。しかし、それに見合う価値が十分にあることは間違いありません。大阪教育大学の教職大学院には、教員として成長を志す方にとっての最適な学びの環境があると感じています。

スクールリーダーシップコース（M2）
関西学院大学出身
在学教職大学院生
大阪府立狭山高等学校

大西 弘記 さん



私は、大阪市の小学校で勤務しながら、教職大学院で学ぶ機会を得ることができました。教職大学院は、教育現場で直面する課題を理論と実践の往還を通じて深く探究する場であり、自分の教育観や専門性を見つめ直す大きな契機となりました。

「令和の日本型学校教育」を担う「学び続ける教員」という理念のもと、私たちは、最新の教育理論や手法を学び、それを児童生徒の成長に生かす実践力を身につけることができました。教職大学院での学びは、教育の質を向上させるために不可欠です。授業の改善や児童生徒の潜在能力を引き出すための視点を得ると同時に、様々な校種や職位の現職教員院生同士のネットワークを築き、共に学び合うことができました。この経験は、教育者としてのアイデンティティを再構築し、より高い教育の質を追求する原動力となったと思います。

教職大学院での学びは、教員としての自己成長はもちろん、児童生徒の可能性を最大限に引き出すためにも不可欠です。みなさんが教育の未来をより良くするための第一歩として、教職大学院での学びに挑戦されることを心から応援しています。ともに、「令和の日本型学校教育」を支える新しい教育の姿を築いていきましょう。

令和6年度修了
スクールリーダーシップコース（修了）
大阪市立港晴小学校

西岡 毅 さん



少しずつ後輩ができてきて、「彼ら彼女らに私は何を教えられるだろう」と思っていたところに教職大学院を紹介いただきました。いろいろな研修会に参加していましたが、重複する内容が多くなってきて、自分にとっては支援教育への理解、さらに言えば教育全般の理解をさらに深めるためには良い機会だと思い、受験を決めました。

入学すると、思っていた通り自分の知らなかったことが講義内・ゼミの中でたくさん出てきました。また、今勤務校で当たり前に行なっていることの「歴史」と「意味」を知ることができ、勤務校の良いところ、改善点も考えることができました。おかげで仕事の一つひとつに目的を持って取り組むことができています。

支援学校では教員の働きかけに対する児童生徒の表出が微細なことや明確でないことがあります。微細であれば「どうすれば読み取れるのか」、明確でない場合は「どうすれば明確になるのか」ということをテーマに理論を学びながら実践をしています。9時～15時の約6時間、1日の約1/4を学校で過ごす子どもたちに何をすべきなのかを考えながら、さらに学びを深めたいと思っています。

所属するコースはもちろん、他コースの現職教員院生の方や講師の方々との出会いもあり日々刺激のある生活を送っています。入学を検討されている方へ心から受験をお勧めします。

特別支援教育コース（M2）
大阪教育大学出身
在学教職大学院生
大阪府立交野支援学校

中嶋 駿 さん



教育実践力コース



学修課題

生徒の
学びに向かう力を育む
授業提案

～問いの表現に着目して～

教育実践力コース(M2)

伊藤 敏志さんの場合
学部卒院生
(大阪教育大学令和6年3月卒)



※令和6年度作成記事です。

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
授業曜日		1限 8:50～10:20 自主練	2限 10:35～12:05 協働学習室	昼休み	3限 12:55～14:25 「教育評価の理論と実践」	4限 14:40～16:10	5限 16:25～17:55 協働学習室	プライベート						
実習日	実習開始 8:00							実習終了16:45		プライベート				

私は教職大学院生の今も学部時代から続けている弓道部に所属しているため、空き時間には自主練習を行っています。この時間は、体力や集中力を鍛え直し、リフレッシュにもつながる大切なひとときです。また、協働学習室を活用して、学友と研究内容や読んでいる文献について意見交換を行うこともあります。この場を通じて、自分だけでは得られなかった新たな知見を得たり、自分の研究内容を整理したりすることができ、とても有意義な時間を過ごしています。他にも自分の研究や学びを深めるために、先輩方との読書会を自主的に企画・参加しています。この読書会では、専門的な文献を読み解き、先輩方と議論する中で新たな視点や考え方を得ることができます。特に、研究に役立つ知見を得るだけでなく、教科そのものを学ぶ意義や楽しさを改めて実感できる点が大きな魅力です。さらに、教師をめざす高校生育成プログラム「教師にまっすぐ」というイベントにも積極的にスタッフとして参加しています。この活動を通じて、同年代の仲間だけでなく、高校生という異なる世代からも刺激を受け、学びを深める貴重な経験ができています。空き時間を自分なりに有効に活用することで、研究や部活動、イベント運営など、様々な経験を積むことができ、教職大学院生活がより充実したものになっています。



（「教師にまっすぐ」にスタッフとして参加した時の写真）

M1の第2タームから本格的な学校実習がスタートします。
私は現在、府内の高等学校で実習を行っています。学部時代に経験する教育実習とは異なり、教職大学院の2年間で300時間にわたる実習に取り組むことができるため、より具体的に深い学びが可能です。
ターム2では、自ら設定した細かな目標に基づき、「生徒理解」や「学校理解」に力を入れて実習を進めました。特に学校行事に積極的に参加することで、生徒のリアルな様子を知り、実践に向けた準備を着実に進めることができました。
ターム3では、実習先の指導教員と相談しながら、自分が取り組みたい研究テーマと学校側のニーズを擦り合わせ、より具体的に焦点を定めていきました。この過程を通して、実践課題研究に向けた計画を練ることができました。
毎回の実習を通じて、生徒や先生方と徐々に信頼関係を築きながら、自分のテーマに向き合って実習に打ち込めるのは、教職大学院ならではの魅力だと感じています。この取り組みは非常にやりがいがあり、将来の教員としての成長を実感できる貴重な経験です。

学校実習のスケジュール【金曜日の例】						
8:00～	実習開始	13:10～14:00	5限 授業見学・補助			
8:35～ 9:25	1限 授業見学・補助	14:10～15:00	6限 指導教員との打ち合わせ			
9:35～10:25	2限 指導教員との打ち合わせ	放課後	実習ノートの記入/指導教員との振り返り/教材研究/実践検討/部活動見学			
10:35～11:25	3限 実習ノートの記入					
11:35～12:25	4限 指導教員との打ち合わせ		実習終了			
12:25～13:10	昼休み	16:45				

教育評価の理論と実践という授業では、現行の評価方法がどのような変遷を経て現在の形に至ったのかを初めに学びます。その後、現在の評価や評定にどのような課題があるのかを教職大学院生同士で議論します。課題を挙げるだけで終わるのではなく、自分であればどのように改善できるのかを、文献を参考にしながら、自身の専門教科に焦点を当てて考える実践的な内容となっています。
授業を通じて、これまで評価方法について抱いていた違和感を、学んだ知識や表現を用いて言語化し、将来自身が教員になった際にどのような評価を行うべきかを深く考える機会を得られます。
また、教職大学院では、こうした理論的な学びに加えて、例えば「グローバルスタディーズの展開」の授業では台湾の師範学校を訪問し、授業実践を行うような国際的な活動にも取り組みます。このように、理論と実践を多角的に学べる点が教職大学院の大きな魅力だと感じています。



（グローバルスタディーズの展開の授業で海外の日本人学校に行った時の写真）

時間割例

※令和6年度入学生の場合

授業時間	
1限	8:50～10:20
2限	10:35～12:05
3限	12:55～14:25
4限	14:40～16:10
5限	16:25～17:55

前期第1ターム（4月～6月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月	カリキュラムの編成原理とマネジメント	学習指導の実践的展開					
火	インクルーシブ教育の理論と実践	教育におけるDXとSTEMの理論と実践					
水							
木	学校経営と学級経営の理論と実践	生徒指導と教育相談の実践的課題					
金	教育実践の研究手法						

集中講義（夏季期間） 教材・題材開発研究【コミュニケーション・コンピテンシー】

前期第2ターム（6月上旬～8月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月	基本学校実習Ⅰ （授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施）						
火		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践					
水							
木	基本学校実習Ⅰ （授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施）						
金		ゼミ					

前期第1ターム（4月～6月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月							
火							
水		ゼミ					
木	探究学習の開発と実践						
金						教材・題材開発研究 【算数・数学 授業分析】	

前期第2ターム（6月上旬～8月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月							教材・題材 開発研究 【算数・数学 教科書分析】
火	発展課題実習Ⅰ （授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施）						
水		ゼミ					
木	発展課題実習Ⅰ （授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施）						
金	発展課題実習Ⅰ （授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施）						

後期第3ターム（10月～12月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月							
火		ゼミ					
水							
木	基本学校実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施）						
金	基本学校実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施）						

集中講義（冬季期間） 高度教科内容【他地域教育実践】 グローバルスタディーズの展開

後期第3ターム（10月～12月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月						教材・題材開発研究 【算数・数学/ 教科書分析】	
火	発展課題実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施）						
水		ゼミ					
木							
金	発展課題実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施）						

後期第4ターム（12月上旬～2月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月			教育評価の理論と実践				
火		ゼミ				学校における コーディネーション	
水	授業研究 【数学】	高度 授業研究 【数学】					
木	基本学校実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施）						
金	基本学校実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施）						

後期第4ターム（12月上旬～2月上旬）							
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月	教師力・学校力・ スクールコンプライアンス						
火	発展課題実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施）						
水		ゼミ					
木	発展課題実習Ⅱ （授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施）						
金						高度 教科内容研究 【算数・数学】	

科目区分		修了 要件に 必要な 単位数	本例における 取得単位数	
			必修	選択必修
研究科 共通科目	必修	16	14	
	選択必修	4	4	
学校実習科目		10	10	
コース 科目	必修	6	6	
	自由選択科目	6	8+1	
課題研究科目		4	4	
計		46	47	

上記の時間割モデルは令和6年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

援助ニーズ教育実践コース



学修課題

授業スタンダードを活用したポジティブ行動支援(PBS)による不登校の未然防止

～学校の風土への影響に着目して～

援助ニーズ教育実践コース(M2)

西田 淳一さんの場合

現職教員院生
(高槻市立桜台小学校/大阪教育大学卒)



※令和6年度作成記事です。

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
業曜日 (勤務日)		分掌業務、授業時間				給食指導、清掃指導、 分掌業務	分掌業務、授業時間			分掌会議、 授業の準備	移動、食事	6限 授業 18:00～19:30	7限 授業 19:40～21:10	就寝
実習日	勤務日のうち、自ら設定するテーマに基づく取組に従事して いる時間は「学校実習」の実習時間にカウント													
休 日	8時までに課題に取り組む。			家族と過ごす時間、趣味に打ち込む時間										

授業ごとにレポートなどの課題があります。この課題はどれも今後の現場での実践につながるものばかりで大変有意義なものだと感じています。また、働きながら教職大学院に通っている現職の私たちのことも考慮してくれた内容となっています。授業によってはグループでの教材づくりなどの課題もあり、自分にはない視点を得られる絶好の機会にもなります。

私は主に土曜日の早朝を課題に取り組む時間としています。課題が終わった後は、家族と体を動かしたり、自分の趣味に打ち込んだりしています。私の場合は、家族や周囲の方々の温かい理解のもと教職大学院生としての生活を過ごすことができています。教職大学院生の方々の中には小さいお子さんがおられる中、学びを深められている方もたくさんいらっしゃいます。私も体力的に無理がなく学ぶことができていますが、現職教員の皆さんが職場での勤務、教職大学院、育児などを並行させて行っているのも、大半の授業をオンラインで受講できるという環境のなせる業なのかもしれません。



(休日、家族との時間の写真)

日中は、小学校の教員として子どもたちと関わっています。私は「魅力ある学校づくり」や「生徒指導」に関わる分掌を担わせていただいています。また、理科の授業を担当し、子どもとともに楽しみながら学びを深めています。

教職大学院に通うようになってからは、教職大学院で学んだことを教育活動の中に取り入れることができるようになりました。例えば、教職大学院ではこれまでに子どもたちの「望ましい行動を増やすアプローチ」とそれに基づく「成功体験への繋ぎ方」について詳しく学ぶことができました。学んだことを生かし、普段の授業の中で、子どもたちに期待する姿を描くだけでなく、そのために子どもたちにどのような働きかけをしていくことが必要なのか計画を立てました。その計画を担当する理科の授業の中で実践することができました。このように、自身の教育活動を見直すとともに、実践につなげる機会がたくさん得られます。

そして、援助ニーズ教育実践コースでは子ども一人ひとりの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践力を育むための授業が多く設定されています。例えば「援助の理論と協働的援助」では子どもの援助ニーズのアセスメントの観点を養い、校内外の援助資源と連携しながら子どもの援助をすることができるようになります。また、「いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ」では、いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズに対しての支援方法について考えるための実践力を身につけることができます。

授業を受けることで様々な教育課題に対しての解決の糸口が見え、その実践を勤務校で行うことができます。

授業は、基本的に対面かオンラインのどちらかを選択して受講することができます。私は以前から教職大学院に興味はあったものの、自宅から天王寺キャンパスまで移動するだけで1時間半はどかかってしまうので、教職大学院で学ぶことをあきらめていました。しかし、現在は大半の授業をオンラインで受講することができるため、私のように通学に時間がかかる方も授業を受けられる環境が整っています。

どの授業も新たな学びに溢れています。授業を担当されている先生方はそれぞれの深い専門性に加え、最新の知見に基づくお話しをくださいます。なので、学校現場で起こっていることと授業内容を結びつけて考えを深めることができます。そして翌日から現場で活用できると考えることもたくさんあります。また、教職大学院生同士でディスカッションする機会も多く、授業にあるので、様々な考え方を学ぶことができます。オンラインでもブレイクアウトルームを活用してディスカッションができるのが非常にありがたいです。勤務中、交流するのは同じ校種の先生方が多いですが、教職大学院では幼稚園から高等学校、特別支援学校、各市教育局など校種も様々に集まっているので、普段は一緒に働くことのない人たちからお話をうかがえるのも魅力の一つです。

また、「実践課題研究」(いわゆるゼミ)の授業は、それぞれの教職大学院生の興味・関心に沿って、専門の先生が指導教員を担当してくださいます。自分の研究したいこと、また自身の勤務校での実践について指導と助言をいただく絶好の機会となっています。『実践課題研究』の授業では同じ領域に興味・関心を持っている教職大学院生が集まっているので、自分の実践や行き詰まっていることについて意見をいただいたり、実践報告についてお話をうかがえたりするので、とても楽しく有意義な時間になっています。

時間割例

※令和6年度入学生の場合

授業時間

6限	18:00～19:30
7限	19:40～21:10

右記の時間割モデルは令和6年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

M1

前期第1ターム(4月～6月上旬)

曜日	6限	7限
月	学習指導の実践的展開	
火	援助の理論と協働的援助	
水	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践	
木	個別RM	実践課題研究Ⅰ
金	生徒指導と教育相談の実践的課題	

後期第3ターム(10月～12月上旬)

曜日	6限	7限
月	グローバルスタディーズの実践的展開	
火		個別RM
水	カリキュラムの編成原理とマネジメント	
木	外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ	実践課題研究Ⅰ
金	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	

時間割外講義

インクルーシブ教育の理論と実践(オンライン授業を受講(オンデマンド型))	グローバルスタディーズの展開(集中講義、必修)
臨床的研究法入門Ⅰ・Ⅱ(集中講義、自由選択科目)	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ(集中講義、コース選択科目)

前期第2ターム(6月上旬～8月上旬)

曜日	6限	7限
月	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	
火		
水	学校経営と学級経営の理論と実践	
木	個別RM	実践課題研究Ⅰ
金	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	

後期第4ターム(12月上旬～2月上旬)

曜日	6限	7限
月	保護者との協働的援助	
火	予防的な関わりと協働的援助	
水	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	
木		
金	個別RM	実践課題研究Ⅰ

M2

前期第1ターム(4月～6月上旬)

曜日	5限	6限	7限
月		共生社会をめざした協働的援助	
火			
水		メンタルヘルス課題の理解	
木		個別RM	実践課題研究Ⅱ
金			

後期第3ターム(10月～12月上旬)

曜日	5限	6限	7限
月			社会的包摂に関する実践的探究
火			
水			
木		個別RM	実践課題研究Ⅱ
金			

時間割外講義

エビデンスベースの学校改革(集中講義、コース選択科目)	多職種協働による組織マネジメント(集中講義、必修)
-----------------------------	---------------------------

前期第2ターム(6月上旬～8月上旬)

曜日	5限	6限	7限
月	通常学級におけるインクルーシブ教育の実践(5限オンデマンド)		
火		学校安全と危機管理	
水		学校危機における援助ニーズ	
木		個別RM	実践課題研究Ⅱ
金			

後期第4ターム(12月上旬～2月上旬)

曜日	5限	6限	7限
月			社会的包摂に関する実践的探究
火		学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造	
水			
木		個別RM	実践課題研究Ⅱ
金			

科目区分		修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数
研究科 共通科目	必修	16	16
	選択必修	4	4
学校実習科目		10	10
コース 科目	必修	6	6
	選択		14
自由選択科目		6	10
課題研究科目		4	4
計		46	66

授業科目一覧

教員養成フラッグシップ大学指定による単位の修得方法に関する特例を用いた研究科共通科目「フラッグシップ大学特例領域科目」を設置し、幅広い学びのニーズに応えます。

研究科共通科目

科目区分		授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
共通5領域科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	カリキュラムの編成原理とマネジメント	教育DX・STEAM実践に関する領域	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践
	教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	教育グローバル人材の育成に関する領域	グローバルスタディーズの展開
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	多職種協働による組織マネジメントに関する領域	多職種協働による組織マネジメント
	学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	ダイバーシティの理解に関する領域	社会的包摂に関する実践的探究
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践
		外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
		インクルーシブ教育の理論と実践		
		インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援		
			通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	
			学校安全と危機管理	
			人権教育の課題と実践	
			臨床的研究法入門Ⅰ・Ⅱ	

学校実習科目

コース	授業科目の名称			
スクールリーダーシップコース 援助ニーズ教育実践コース 教育実践力コース	基本学校実習Ⅰ	基本学校実習Ⅱ	発展課題実習Ⅰ	発展課題実習Ⅱ
特別支援教育コース	基本学校実習Ⅲ(特別支援)	基本学校実習Ⅳ(特別支援)	発展課題実習Ⅲ(特別支援)	発展課題実習Ⅳ(特別支援)

》 スクールリーダーシップコース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	スクールリーダーシップの理論と実践	学校改善のためのアクションリサーチ	学校における人材育成の理論と実践
選択科目	スクールリーダーのマネジメント		校内研修の持続的發展
	学校組織開発		学校に対するコンサルテーション
	チーム学校の実践的展開		授業におけるICT活用の理論と実際
	学校におけるコーディネーション		メディア・情報リテラシー教育の実践的展開
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開		新しい時代の教育政策と学校経営Ⅰ・Ⅱ

≫ 援助ニーズ教育実践コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	援助の理論と協働的援助	保護者との協働的援助	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ
選択科目	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ		就学前の子どもの援助のための政策・システム
	予防的な関わりと協働的援助		就学前の援助ニーズへの多様な支援
	学校危機における援助ニーズ		エビデンスベースの学校改革
	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ		教員のための応急処置の基礎と実践
	メンタルヘルス課題の理解		学校経営における学校保健及び保健室のマネジメント
	共生社会をめざした協働的援助		

教育実践力コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	教育実践の研究手法	教育評価の理論と実践	探究学習の開発と実践
選択科目	授業研究 [小学校国語]/[小学校英語]/[小学校音楽]/[中高国語]/[中高英語]/[中高理科]/[中高音楽] /[算数]/[数学]/[社会科]/[家庭科] [技術]/[体育・保健体育]/[道徳]/[書写]/[美術]/[身体と表現 カリキュラムデザイン]		
	教材・題材開発研究 [小学校理科 生命・地球]/[小学校理科 エネルギー・粒子]/[中高理科 物理・化学]/[中高理科 生物・地学] [英語論理・表現]/[国語科]/[算数・数学]/[代数・幾何]/[解析・確率]/[地理]/[歴史]/[政治・経済]/[倫理]/[哲学]/[社会学] [家庭科]/[道徳]/[体育・保健体育Ⅰ・Ⅱ]/[音楽学]/[書鑑賞]/[声楽]/[技術・情報]/[ものづくり]/[技術 エネルギー変換(電気)] [技術 材料と加工]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[芸術文化理解]/[創造と表現]/[消費者教育]/[特別活動]/[教育と想像力] [コミュニケーション・コンピテンシー]		
	高度授業研究 [小学校英語]/[小学校国語]/[小学校音楽]/[中高国語]/[中高理科]/[中高音楽]/[英語科]/[数学]/[社会科]/[家庭科] [体育・保健体育]/[道徳]/[総合的な学習の時間]/[身体と表現 カリキュラムデザイン]/[芸術書道]/[美術]		
	高度教科内容研究 [中高理科 化学]/[中高理科 物理]/[中高理科 生物]/[中高理科 地学]/[国語科 言語表現]/[国語科 言語文化] [英語コミュニケーション]/[算数・数学]/[代数・幾何]/[解析・確率]/[地理]/[歴史]/[公民]/[道徳]/[家庭科]/[ものづくり]/[技術] [消費者教育]/[体育・保健体育]/[他地域教育実践]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[芸術文化理解]/[創造と表現]		

》 特別支援教育コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	特別支援教育の教育課程と授業論	特別なニーズのある子どもの臨床
選択科目	インクルーシブ教育の理論と実際	特別支援教育の現代的課題	
	特別支援教育コーディネーター論	発達支援教育実践論	
	特別なニーズのある子どもの生理と病理	教育相談支援の理論と実際	
	発達障がいのある子どもの理解と支援		

》 高度教職プログラム

教職大学院生が、様々な学校現場のニーズ及び教育課題に対応し、課題意識を持ちながら主体的にプログラムを選択し履修することで、学校教員としての高度な資質及び力量を強化することを目的とします。

プログラム名称	構成科目
インクルーシブ教育プログラム	・インクルーシブ教育の理論と実践 ・インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援 ・通常学級におけるインクルーシブ教育の実践
外国にルーツのある子どもの支援プログラム	・外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ ・外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ ・外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ
生徒指導プログラム	・いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ・学校危機における援助ニーズ ・予防的な関わりと協働的援助
障がい・健康課題のある子どもへの協働的援助プログラム	・障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ・メンタルヘルス課題の理解 ・共生社会をめざした協働的援助
特別支援教育プログラム	・インクルーシブ教育の理論と実際 ・特別なニーズのある子どもの生理と病理 ・発達支援教育実践論
学校マネジメントプログラム	・スクールリーダーのマネジメント ・チーム学校の実践的展開 ・学校組織開発

課題研究科目

授業科目の名称
実践課題研究Ⅰ
実践課題研究Ⅱ

コースカリキュラム
についての
詳細はコチラ



就職支援



キャリア支援センターによる教員採用試験の充実したサポート体制を整えています。

Support 1 筆記試験対策講座

筆記試験対策講座を講義形式で実施

Support 2 面接試験対策講座

面接試験に必要なノウハウ・テクニックを身につけることが可能

Support 3 教育委員会による採用説明会

各教育委員会関係者が大学で採用説明会を実施
試験の詳細や変更点を聞くことが可能

Support 4 私立学校教員採用説明会

私立学校人事担当者が本学で説明会を実施
各学校の採用予定や特色を聞くことが可能

Support 5 実技・面接対策講座

水泳・音楽・器械運動など実技試験、集団討論・面接、
模擬授業・場面指導の対策講座を実施

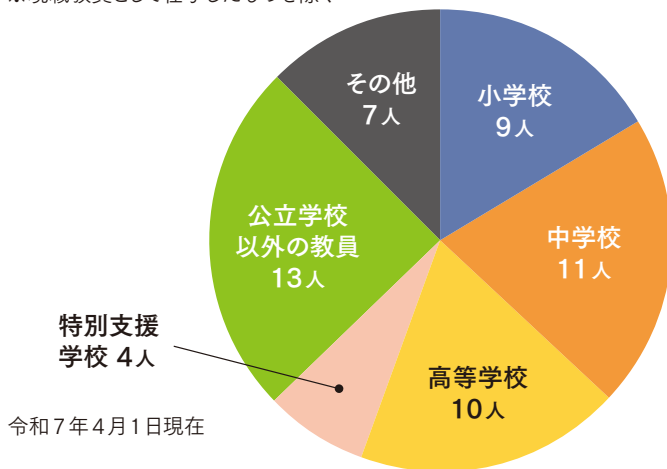
Support 6 専門アドバイザーによる相談

専門アドバイザーによる教員採用試験相談を実施

進路状況

令和6年度修了者の就職状況(54人)

※現職教員として在学したものを除く



教員採用試験の 採用候補者名簿 掲載期間の延長について

教員採用試験を受験し最終選考まで合格した人に対し、教職大学院に進（在）学し専門職学位課程修了後の採用を希望する場合において、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長できる制度を設けている自治体が複数あります。
※延長制度の有無や詳細については、受験を希望する自治体の採用試験実施要項を確認してください。

Pick Up

◆科目等履修生制度

正規の教職大学院生の他に、連合教職大学院の正規の授業を聴講して単位を修得する制度です。1年間に8単位まで履修することができます。教員免許状の取得に必要な科目の履修や特定のテーマについて専門的に学びたい場合にご利用ください。また、本制度により修得した単位は、正規教職大学院生として入学した際、既修得単位として認められます。



◆履修証明プログラム

「履修証明プログラム」とは、社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラムで、修了者には学校教育法の規定に基づく履修証明書が交付されます。連合教職大学院では、学校現場のニーズや教育課題に対応することを目的として、当研究科が開設する授業科目により履修証明プログラムを編成・開設しております。
履修証明プログラムの履修生として入学が許可されると、科目等履修生としての身分を有することになり、修得した単位は科目等履修生として修得したものとして取扱います。



◆授業公開

連合教職大学院では、年間を通じて授業を公開しています。連合教職大学院での学びをぜひ一度体験してください。
詳細は連合教職大学院ウェブページにてご確認ください。



学費・奨学金



■入学科・授業料

令和7年度入学	入学科	授業料(年額)
大学院	282,000円	535,800円
大学院(長期履修学生制度の適用者)	282,000円	357,200円

上記金額は、令和7年度入学者の金額であり、令和8年度入学者については、変更される場合があります。

授業料等免除制度

一般選考	経済的理由により入学科・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学科・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
入試成績優秀者に対する特別授業料免除	本学教職大学院に入学する方のうち、本学入学試験の成績が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、入学年度の前期授業料の全額が免除されます。

専門実践教育訓練給付金

連合教職大学院では、全てのコースが、厚生労働大臣より教育訓練給付金制度の専門実践教育訓練講座に指定されています。これにより、支給対象者は所定の手続きを行うことで、修了後、専門実践教育訓練給付金(入学金+授業料の半額程度)の支給を受けることができます。
※本制度は、国立・私立学校の現職教員等が対象となる可能性があります。
※ただし、長期履修制度を利用する場合、原則、専門実践教育訓練給付金の申請はできません。
※制度の詳細については、厚生労働省のウェブサイトをご確認ください。



■長期履修学生制度

標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後(在学中)の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。

■奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難の方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

(参考) 令和7年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	貸与月額
第一種奨学金(無利子)	50,000円・88,000円のいずれかより選択
授業料後払い制度 (無利子・在学中は授業料を納付せず、 修了後の所得に応じて後払いする制度)	・授業料相当額(年間535,800円が上限) ※日本学生支援機構から大学に直接支払われます。 ・生活費奨学金(20,000円・40,000円のいずれかより選択) ※生活費奨学金のみの貸与を受けることはできません。
第二種奨学金(有利子)	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

上記金額は、令和7年度入学者の金額であり、令和8年度入学者については、変更される可能性があります。
第一種奨学金(無利子)及び授業料後払い制度については、「特に優れた業績による返還免除制度(『教員になった者の奨学金返還免除制度』を含む)」があります。
また、入学予定者を対象とした「特に優れた業績による返還免除内定制度」があります。

入試情報



■ 令和8年度入試日程

	入 試 日	合 格 発 表
1次募集	令和7年 9月6日(土)	令和7年 9月12日(金)
2次募集	令和7年11月30日(日)	令和7年12月5日(金)
3次募集	令和8年 2月8日(日)	令和8年 2月13日(金)

※上記入学試験で定員に満たない場合は4次募集[令和8年2月28日(土)]を実施する場合があります。

■ 選抜方法

【推薦選抜】

入学者推薦選抜は、課題レポート、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。
課題レポートの内容については、大学ウェブページで公表しています。

【一般選抜】

入学者一般選抜は、小論文、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

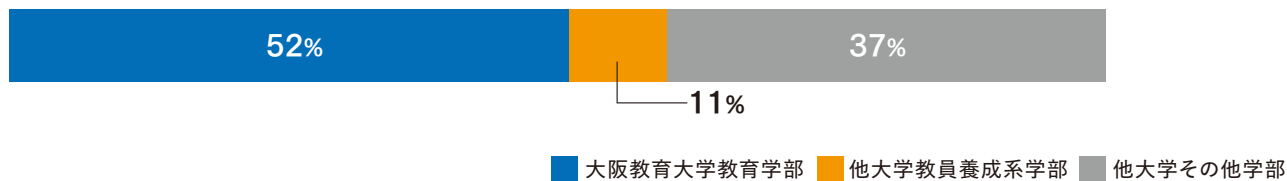
■ 入試説明会

オンラインで全体説明やコース別説明を行います。詳細は大学ウェブページに掲載します。
お気軽に参加ください。

令和7年6月29日(日)、令和7年10月26日(日)、令和7年12月14日(日)

■ 学部卒院生の出身大学・学部（令和5年度～7年度入学者）

入学者の出身大学・学部は、教員養成系大学・学部に限らず、理工学部や文学部、外国語学部など多様です。



三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

大学院連合教職実践研究科(連合教職大学院)は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成を目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に教職修士(専門職)の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

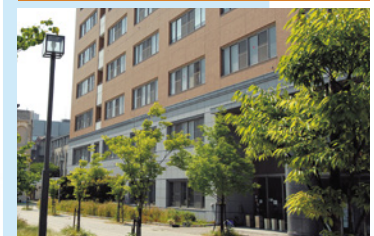
大学院連合教職実践研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成することを目的としています。そのため、教育職員免許法を踏まえながら、教員養成フラッグシップ大学として、指定大学が加える科目を設定した上で、次のように教育課程を体系的に編成し、実施するものとします。

- ①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を体系的に修得する研究科共通科目
 - ②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための活動を展開する学校実習科目
 - ③(スクールリーダーシップコース)自らのキャリアや所属学校園等の組織課題を踏まえ、専門的かつ多元的に学びを進めることを目的としたコース科目
(援助ニーズ教育実践コース)学校現場における協働的援助の実践力を育成することを目的としたコース科目
(教育実践力コース)教育現場の諸課題に広い視野をもって即応できる能力を育成するコース必修科目、1)教科教育系科目群として、a.教科指導力の向上を目指し、児童生徒の実態を踏まえて適切に授業を計画し、実施、評価、改善ができる能力を育成する科目(授業研究科目)、b.教科指導力の充実に目指し、最新の教育改革動向を踏まえて他の教職員の模範となるような授業を計画し、実施、評価、改善ができる能力を育成する科目(高度授業研究科目)、2)教科専門系科目群として、c.教科領域の基礎的・発展的な教材・題材を開発し、実践できる能力を育成する科目(教材・題材開発研究科目)、d.教科領域の高度で専門的な知識の深化を図り、先端的な教材・題材を構想・開発し、実践等を通じて改善できる能力を育成する科目(高度教科内容研究科目)からなるコース選択科目
(特別支援教育コース)特別支援教育の理論と実際について、教育学、心理学、臨床学などの専門分野の観点から多角的に学ぶとともに、障がいの多様化・重度化・重複化、通常の学級における発達障がい児への対応、特別支援教育コーディネーターの機能向上など、特別支援教育における現代的課題に即応できる実践力を培うことを目的とするコース科目
 - ④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目
- ①及び③の実施においては、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入します。また、成績評価においては、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。
- ②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

1. 求める学生像
卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。
・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者
・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人
2. 入学者選抜の基本方針
大学院連合教職実践研究科が求める学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。
【推薦選抜】
大学院入学者推薦選抜では、「課題レポート」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
・「課題レポート」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
・「口述試験」において
学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画に関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
・「学修計画書」において
学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。
【一般選抜】
大学院入学者一般選抜では、「小論文」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
・「口述試験」において
学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画に関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
・「学修計画書」において
学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。
3. 入学前に学習しておくことが期待される内容
(学部卒学生等) ・大学卒業レベルと同等の基礎学力
・教職への基本的な知識・技能
(現職教員等) ・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力
・組織の一員として協働して取り組む力
・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

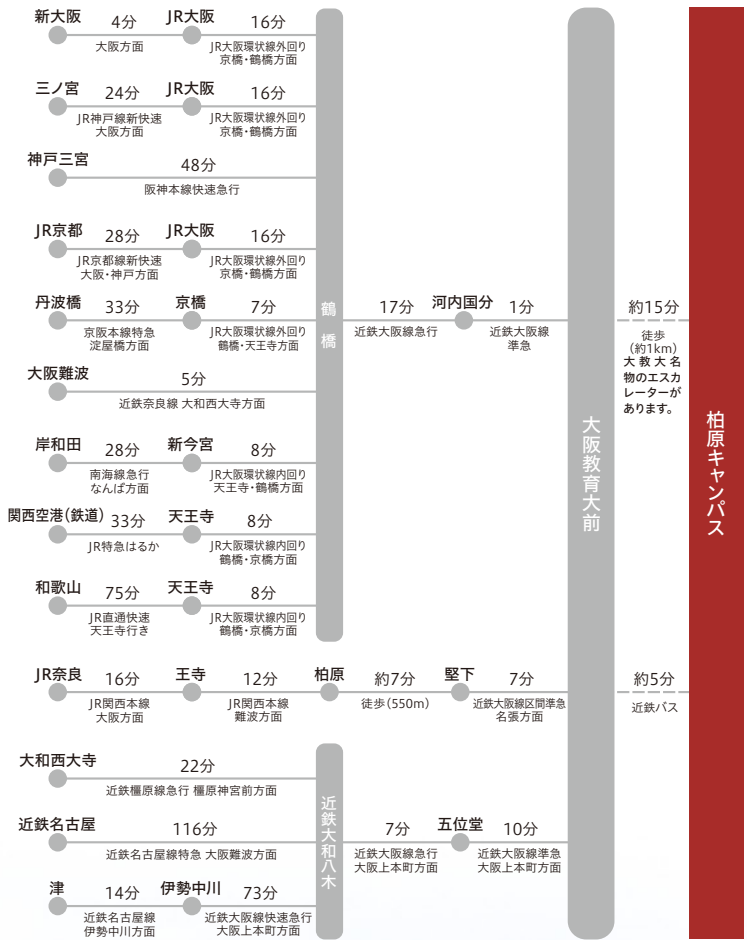
Access



※このアクセスマップはすべての路線が記載されているものではありません。

柏原キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。



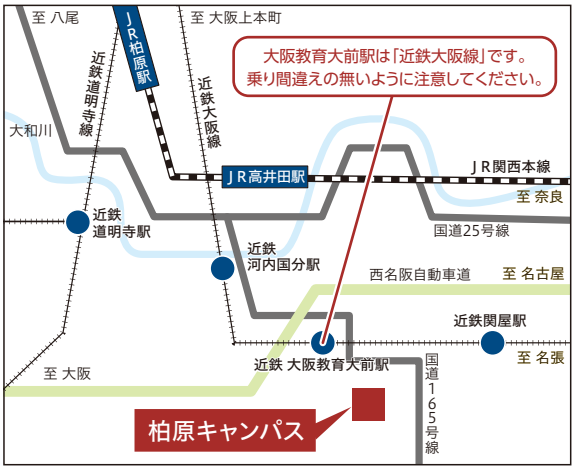
天王寺キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。



大阪上本町駅から
大阪教育大前駅まで近鉄電車で**23分**

JR大阪環状線鶴橋駅から
大阪教育大前駅までなら**19分**



大阪市内中心地 天王寺駅から約600m (寺田町駅から350m)





国立大学法人

大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

学務部入試課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL 072-978-3323